

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500066		
法人名	一般社団法人 島宝		
事業所名	グループホームおぢかの家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷1466番地1		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	平成27年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームおぢかの家は、陽当りも良く、回りの環境にも恵まれています。地域に密着したホームで、地域の行事やイベント等にも積極的に参加し、地域の方からも声をかけてもらったり、野菜や魚等の差し入れもよくあります。
入居者や職員も毎日生き活きと笑顔で楽しく過ごしていることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは港から程近い住宅地に位置している。利用者同士が顔見知りだったり、職員とも子や孫を通じて馴染みの関係であり、利用者にとって安心して暮らせる環境である。食事は、職員と利用者が家族のように和気藹々と食卓を囲んでおり、「家庭的な雰囲気の中で」また「住み慣れた地域の中で」暮らし続けられるように支援するという理念が実践されていることが確認できる。介護計画は、職員一人が利用者一人を担当し、モニタリングや介護計画作成に関わっている。それを基に、評価表を管理者が作成している。評価表を基に家族へ報告し、家族は次回の計画に対する要望を書き加えており、介護計画の振り返りと新たな課題を明確にする仕組みが構築されていることは、家族の安心に繋がっている。代表は、地域の高齢者介護を取り巻く問題について意識が高く、地域住民のホームに対する期待は大きい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼で、“理念”の唱和をおこない、全職員が事業所の理念に沿ったケアを心がけている。	3つの理念の中の「一人ひとりと向き合い気持ちに寄り添う」という理念を基に、職員は利用者がその人らしく生活していくために、日課を強制しないことや本人が好きなことをして過ごしてもらうよう心掛けている。また職員は利用者が住みなれた地域の中で暮らし続けられるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会にも参加したり、町の行事にも積極的に参加している。	ホームの存在を知ってもらうために、代表は折りに触れて住民に挨拶している。職員と島内の認知症家族の会は、街頭にて認知症について啓蒙活動を行っている。職員と利用者は地域の敬老会や祭りに参加し、国際音楽祭のボランティアが事業所を訪問し演奏を行うなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談にもものったり、介護の不安やアドバイスを気軽に提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホーム内の状況や活動報告をおこない、参加メンバーからの意見を聞く機会をつくっている。	年6回、規程のメンバーで開催している。外出が少ないのではないかとこの質問に対して、気候の良い時は日光浴や月1回の弁当持参の外出を行っていることを説明している。また、地域の老人会会長より島内の高齢者介護に関する問題提起があり、参加者全員で話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の行事にも法人として参加したり、担当の職員もホームへ訪れたりして、事業所からの相談にも応じてくれている。	認定調査の際に役場の職員が訪れたり、介護保険の制度の疑問点はその都度問い合わせしている。包括支援センターからは、研修の案内が届いている。3月の国際音楽祭では、ボランティアの訪問演奏について役場と連絡を取り合うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、身体拘束に繋がらないように、ケアカンファレンス等で話し合いながら利用者様に抑圧感を招いていないか点検している。	帰宅願望のある利用者に対しては、納得の行くまで職員が付き添って一緒に歩いている。職員は「待つ」という言葉も身体拘束になることを理解している。不適切なケアについてや記録の文言は職員に意識調査を行い、それを基に勉強会を行うなど拘束に繋がらないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも参加したり、日々のケアの中でも不適切なケアについて話し合っている。		

グループホームおぢかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる対象者がいる場合は、随時アドバイスができるように資料の準備はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の方針や重要事項の説明も丁寧におこない、改定や契約の変更等があるときも文書や口頭にて説明をおこない同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時やケアプラン変更前には、利用者及び家族の要望や意見を聞く機会をつくっている。	意見や苦情の内部、外部窓口や解決の流れは契約時に説明している。職員は、家族の訪問時や電話を掛けた際に要望を聞き取っており、記録し職員間で共有している。現在、家族アンケートを計画しており、内容や時期、方法について検討中である。また、以前実施していたホーム便りが、一時中断している状況である。	家族へのアンケートは職員全体で考え、家族の意見や要望を広く吸い上げ、運営に反映させる事を期待したい。また、ホーム便りを再開し、利用者の暮らしぶりを定期的に家族へ知らせる事が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスでは、職員の意見を聞く機会を設け、年に2回は個別面談をおこない意見を聞いている。	職員は日頃から気づいたことは管理者へ伝えている。毎月のカンファレンスでは積極的に意見を出し合っている。介護福祉士の資格取得を目指す職員に資格取得のための支援を行っている他、実践者研修の受講も促している。シフトについても配慮し、働きやすい職場環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日現場に出て、職員の不満やストレスの要因についても気を配り職員が楽しく仕事ができる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも出来る限り参加してもらい、研修報告をして職員全員が共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回、他事業所との交流会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	入所前には利用者本人と家族にも面会して、ご本人や家族がおかれている状況を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人や家族の要望を聞きながら安心して利用できるように話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのサービスの利用状況を聞きながら、家族が求めているものと事業所ができることを十分に話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の一方向的な支援にならないように、お互いが協働しながら和やかに生活できるような声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様がこれまで生きてきた生活文化を教えてもらうような場面もあり、感謝の気持ちを表しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人とも出会う場所に出向いて行ったり、希望があれば一緒に同行して外出している。	利用者同士は顔なじみであり、また職員とも家族を通じて馴染みの関係を構築している。周辺の散歩時には、知り合いから声が掛かることも多く、職員は利用者の生活歴を把握し、毎日の支援に役立てている。職員はつわ取りの得意な利用者と一緒につわ取りに出掛けるなど、利用者の生き生きとした姿を引き出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も入所前からの馴染みの関係があり、利用者同士支えあっている場面も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された家族の方とも継続的なつきあいをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でも利用者本位を原則に、ご本人にとってどのようなケアの方法が良いかをケアカンファレンスで話し合っている。	利用者の発した一言の意味を職員同士で話し合い、申し送りノートやカンファレンスで共有している。カルタやトランプ、手芸等利用者の趣味や特技を見出し、生活にハリが出るよう支援している。また、ゆっくり過ごしたい利用者の気持ちも尊重し、配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使ってご本人の情報をもとに、これまでの生活歴や馴染みの暮らしを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの能力に応じて役割分担を決めフォローしながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望を聞きながらアセスメントし、カンファレンスにおいて職員全員で話し合いながら作成している。	担当制となっており、計画作成からモニタリングまで一環しており、長期1年、短期6ヶ月で見直している。支援目標毎に実施状況を個人記録に記載し、職員がわかりやすいよう工夫している。更に、管理者が記録を基に「評価表」を作成し、本人・家族に提示し、要望を聞き取り次の計画に活かす仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別に記録し、申し送りをしながら職員全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の要望に添えるように可能な限り柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアにも来て頂き、運営推進会議等においても地区の老人会長や民生委員とも協働しながら地域に支えてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は職員が同行し、状態等に変化があれば家族への報告もおこなっている。また、必要に応じて往診も依頼している。	島内の診療所がかかりつけ医であり、受診は職員が同行し、場合によって家族に報告している。また、毎朝その日の受診について全職員へ伝え、支援している。結果は受診ノートへ記録し、職員間で情報を共有している。その他専門医も適宜受診しており、職員は利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康状態のチェックをおこない、ご本人の体調に変化があればただちに受診できるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人や家族の希望を聞きながら、医療機関とも協働しながら早期退院ができるように話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族の意向を踏まえながら、医療機関とも連携をとりながら、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	過去に看取りの事例がある。家族、医師、事業所が話し合い、方針を共有しており口頭で同意を得ているものの、書面にて同意を得るまでには至っていない。看取りの指針は、医師や職員など職種別に役割が明確に示されている。ただし、現時点では職員全員による内容の把握が不足している。	看取りに際しては、口頭のみではなく、書面で同意書を得ることが望まれる。また職員の意識を高める為に、今後研修の機会を設けるなど検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時の対応についてのマニュアルを作成し全職員が実践できるような体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域の消防団の協力を得ながら避難訓練を実施したり、地域の避難場所の確保等、地域の協力体制を築いている。	今年度、消防団を交えて避難、救出訓練を夜間想定にて実施している。居室には介助の必要度合を色分けした三角の印がドアにかかっており、避難時の目安となっている。ただし、地震、台風等の災害に対するマニュアルがなく、訓練も実施されていない。	火災に対してだけではなく、地震や水害に対するマニュアルを作成し、訓練を行うなど取組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切にしながらさり気ない言葉かけやケアを心がけている。	本人の様子を見ながら、気持ちに沿った声掛けや誘導で人格を尊重した支援に努めている。職員は、入社時に守秘義務の誓約書を提出しており、個人情報のファイルは来訪者の目につかないよう所定の場所に保管している。ただし、夜間のみ使用するポータブルトイレが、昼間にそのまま室内に置かれている部屋がある。	昼間使用しないポータブルトイレについては、利用者の尊厳を重視し、布等をかぶせるなど目につかないような配慮が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけをしながら介護する側の押しつけにならないように配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、出来る限りご本人の気持ちを尊重しながら、本人の行きたい所へ外出したり、希望を尋ねたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があれば、ご本人の馴染みの理容室に出かけたり、衣類も本人が選択できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえで利用者が出来る事があれば手伝ってもらい、配膳も利用者と職員と一緒にしている。	食材は地域住民からの鮮魚や旬の野菜の差し入れもあり、職員が調理しており、食事前には献立や食材を説明し、会話のきっかけとなっている。弁当を持って外出する事もある。また、鮮魚を刺身や焼き魚など利用者の嗜好や状態に合わせ提供し、楽しく食事できるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と摂取量を職員は把握しており、嫌いなメニューがある時は個別メニューを提供できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守りをしながら毎食後の口腔ケアを実施し、肺炎の防止に努めている。		

グループホームおぢかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、個々に応じたトイレ誘導や声かけ見守りをしている。	利用者の排泄パターンをチェック表を利用して把握している。便秘等利用者の体調もチェック表を活用し、全職員が情報を共有している。利用者の状態に合わせて、飲み物や薬の服用、着用する下着など検討し支援している。これまでに、おむつを使用していた利用者が、リハビリパンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘がちの方には飲み物で工夫したり、ご本人処方の緩下剤にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日3人を目安に一人ひとりがゆったりと入浴できるように個別に入浴をおこない、時間をかけて楽しみながら入浴できるように支援している。	日曜日以外は毎日湯を沸かしており、週に2日以上入浴できるよう支援している。入浴しない日は、清拭で対応しており、下着の着替えは毎日行っている。車椅子の利用者には、補助具を利用し職員2人で介助し浴槽に浸かれるよう支援している。脱衣場には、ヒーターがあり温度差にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い利用者に対しては、日中の活動を工夫し、出来る限り眠剤を使わないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献は個別ファイルに保管し、全職員が把握できるようにしている。また、薬に変更がある時も病院受診ノートに記載し申し送りの徹底をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事があれば無理のないようにお願いしてもらいながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば積極的に外出したり、暖かい季節には月に一度は弁当を持って外出する機会をつくっている。	外出を希望する利用者には、職員が個別に支援している。気候の良い時期には、周辺の散歩に行ったり、庭で日光浴するなど楽しんでいる。また、庭で車椅子の利用者も一緒に全員で歌を歌う機会もある。更に桜や紫陽花、ツツジなどの花見や祭りの見学など毎月、全員で外出する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得てお金を持っている方もおられ、希望があれば買い物へ出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や郵便物が届いたときは、ご本人にお礼の電話をしてもらったり、能力に応じて手紙の返事を書いていただいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは陽当たりも良く、利用者が活動しやすい広さになっている。飾り付けも季節の応じて皆で作ったり写真を飾ったりしている。	広々とした玄関ホールやリビング、廊下は清潔で明るい。リビングの窓からは、利用者が生まれ育った島内の景色を見渡せる。職員や利用者の手作りの手芸品や管理者が描いた利用者の似顔絵を飾り、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファは、利用者がゆったりと過ごせる配置になっており、仲のよい利用者同士と一緒に談話して過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、できる限り使い慣れた家具を持ってくるように伝えたり、ベッドや家具の配置もご本人が居心地よく過ごせるように配置している。	居室は日当たりが良く、清潔感のある空間となっている。タンスやテレビの持ち込みは自由である。またベッドの配置もそれぞれの好みとなっている。毎朝職員が掃除しており、常に換気に気を配っている。居室には家族からの手紙や写真が飾っており、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が混乱しないように浴室・トイレ・居室の入口等には名札をつけたりと、状況に合わせて環境整備に努めている。		